

A3-04

J-PEAKS を活用した大学経営改革

～地域と地球の未来を共創する研究大学を目指して～

河本 雅紀（岡山大学研究・イノベーション共創機構研究・イノベーション共創管理統括部）

1. はじめに

岡山大学が J-PEAKS（地域中核・特色ある研究大学強化促進事業）を契機に推進する大学経営改革について、その全体像と具体的な取り組みをご紹介します。真の“J-PEAKS 大学”を目指し、単なる研究力強化にとどまらず、社会変革を牽引する存在として、地域と地球の未来に貢献する研究大学への変革を目指す本学の挑戦は、岡山大学のビジョン達成に向けた大きな一歩である。

2. 真の“J-PEAKS 大学”とは

J-PEAKS を単なる研究開発支援事業として捉えるのではなく、大学の組織・制度改革を大胆に進める契機と位置づける。社会変革を成し得る組織が、自ら痛みを伴う変革を恐れない姿勢こそが重要であり、本学はこれまでの慣習にとらわれず、研究力強化と組織改革を両輪として推進する。

3. 4つの挑戦

本学は、以下の4つの挑戦を通じて研究力強化と組織改革を進める。

(1) 強みを徹底的に尖らせ新技術を生み出す：研究 IR（エビデンス）に基づき、強み分野と次なる先鋭拠点の形成に向け

た次世代にリソースを投資。研究界の国際サークルを牽引し、強みをさらに強く尖らせるとともに大学全体の研究力の裾野を拡大する。

(2) 大学の内から外なる場へ：地域・研究機関・産業界・自治体等を巻き込み、新たに「外なる場（学外）」を舞台にコミュニティを形成。デジタル田園健康特区との連携を深め、岡山大学でしか成し得ない研究を展開し、地域社会の課題解決に貢献するイノベーションを創出する。

(3) 研究基盤（設備と人）でイノベーション創出の「知と技のメッカへ」：総合技術部の創設、機器利用ポータルサイトの一元化と外部公開、技術職員の高度化などにより、研究者の研究時間確保するなど、人機一体で研究基盤を整備する。

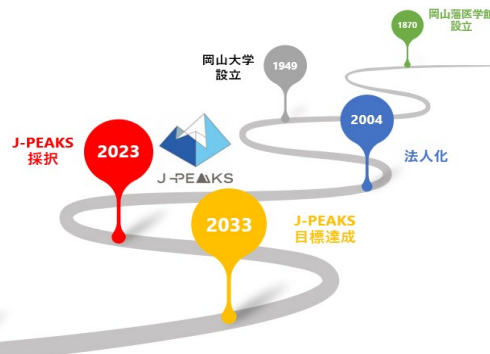
(4) 知識により社会変革を起こす「ナレッジワーカー」を育成：複線型人事制度の導入、教員の機能分化、大学院修学支援制度などを通じて、研究界の国際トップサークルを先導する研究者と、知識によって社会を変革するナレッジワーカーの育成・輩出を推進する。

4. 未来への展望

今後も J-PEAKS の取り組みを推進する中で、“常識”にとらわれない大胆な大学経営改革を行い、さまざまなステークホルダーとともに地域と地球の未来を共創し、社会変革を実現させ、岡山大学長期ビジョン 2050（地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学）の実現を目指す。



岡山大学ビジョン2050
実現



PROFILE

河本 雅紀（岡山大学研究・イノベーション共創機構 副機構長・管理統括部長）

岡山大学法学部卒業、学務・入試業務、財務業務、人事給与業務、病院経營業務の後、財務部財務企画課にて大学全体の予算・財務マネジメント総括を経て、H30.4 惑星物質研究所事務長、R2.4 病院研究推進課長、R4.4 研究協力課長、R7より現職に就任。J-PEAKS採択に際し、役員・教員・URA・事務職員・技術職員とともに事業内容を企画し、現在も J-PEAKS を核に世界に伍する研究の卓越性と大学経営改革における組織風土改革・既成概念の打破のトップランナーとして推進。R7.4には、リサーチ・アドミニストレータスキル認定機構「認定 URA」取得。変化を恐れず、一歩踏み出す。